

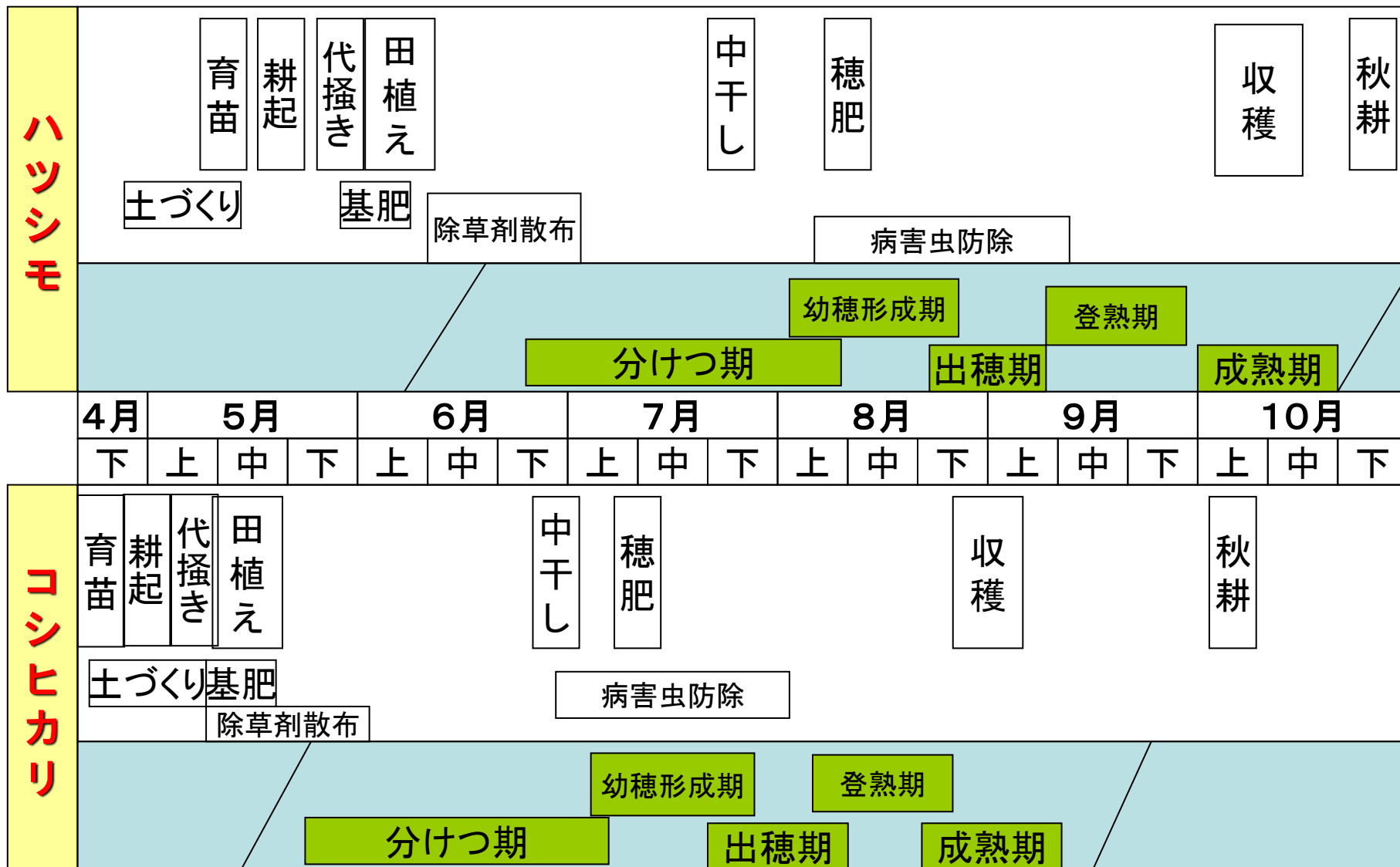
# 土地利用型農業 (稲・麦・大豆) の栽培技術

農業経営課 神田



# I. 水稲の栽培

# 水稻の生育ステージと主な作業



※ 育苗箱に薬剤を施用

※ 全量基肥の場合、穂肥は不要

# ■米づくりの5つのポイント

- 1、地域の諸条件に合った品種・作型
- 2、病気に強く美味しい米は土づくりから
- 3、気候温暖化に対応した適期・適正な管理
- 4、カメムシ、いもち病、縞葉枯病、ウンカ……
- 5、適期収穫が出来を大きく左右する  
～すべてが水泡に帰することのないように～



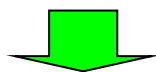
## ポイント①

# 品種・作型

## 田植えと苗質

### ◆活着可能な平均気温

一般的に稚苗の限界気温は12°Cで、  
低いほど活着が遅い



初期生育の不良



### ◆細植え、適正栽植密度の励行

● 植え付け本数: 3~4本/株    ● 栽植密度: 品種特性を考慮

ハツシモ → 晩生: 栽植密度は粗め(30cm × 18~24cm)

コシヒカリ → 早生: 栽植密度は普通(30cm × 16~20cm)

## ポイント②

# 病害虫防除

病気: いもち病

害虫: カメムシ に注意

- ・特にカメムシは近年の温暖化により発生を助長
- ・高温期に出穂期を迎えるコシヒカリ等の早生種に多い
- ・不稔や奇形粒、斑点米を発生させることで品質を著しく低下させる



### ★斑点米被害軽減のポイント

- まず周辺の発生密度を下げる
- 出穂前からの飛び込みを防止
- 出穂期10日前までに草刈り

## ポイント③

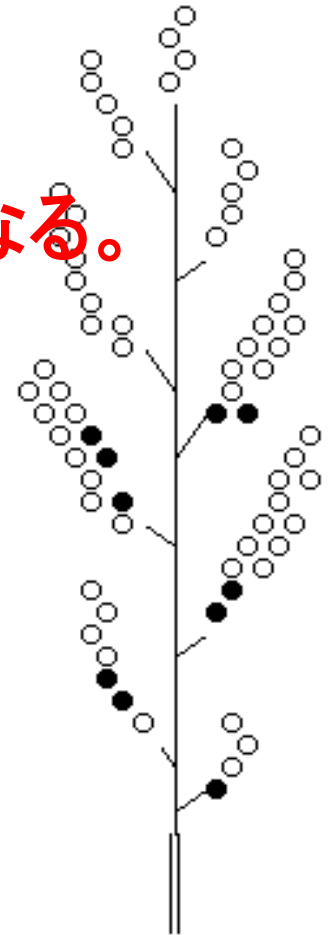
# 適期収穫

早いと青未熟、遅いと胴割れ、退色粒が多くなる。

◆青もみ割合が10%程度で確実に収穫・乾燥調製された米は、胴割れも少なく、玄米特有の艶を有し、良効な外観品質を保つことが出来る

### ◆収穫適期の判断

◎収穫適期とは、ほ場の中庸部における青もみ割合が15%～5%程度の頃



青もみ割合:10%

早刈り(青もみ86%)



適期刈り(青もみ7%)



刈遅れ(青もみ1%)



早刈り

適期

刈り遅れ



## Ⅱ. 麦の栽培





# 麦づくりの5つのポイント

- 1、**排水対策**が麦生育全般の良否を決定する
- 2、地域(土壌条件＋気象条件)及び栽培品種に適した適期播種
- 3、安定的な収量と品質を確保するための施肥
- 4、品質に最も影響する赤かび病防除の徹底
- 5、収穫適期の適正判断と収穫作業の実施

- JAが生産～乾燥・調製～出荷・販売まで深く関わる
- ほぼ100%を製粉会社に売り渡す《契約》 原料作物

# 排水対策

～麦は排水でとる～

## ○排水の良否が生育・収量に大きな影響

- 適期播種ができるよう圃場を準備  
→ 播種遅れは生育・収量が減少
- 暗渠排水や額縁明渠を設置



排水溝設置



播種作業



# 適期収穫

～最後の収穫作業は麦の出来を大きく左右する～

○刈り遅れによる品質低下は深刻

●穂発芽粒、黒カビ粒、退色、奇形粒等により外観品質の低下


●梅雨入り頃の収穫  
水分30%未満で収穫開始も





# Ⅲ . 大豆の栽培

# 大豆の生育ステージと主な作業

6月		7月			8月			9月			10月			11月		
中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
耕起作業		播種期			莖葉伸長期			開花期			子実肥大期			成熟期		
○前処理除草		適期播種			中耕培土									○収穫前除草		
○明渠・弾丸暗渠の設置・補修								病虫害防除（ハスモンヨトウ・カメムシ類・アブラムシ類）						収穫 →		
○土づくり肥料の散布								畦間灌水（必要に応じて）								

※本県産フクユタカを想定



# ■大豆づくりの5つのポイント

- 1、**播種時の排水対策**が生育全般の良否を決定  
～麦跡の場合は麦作時の排水をそのまま生かす～
- 2、**莢の充実・品質に著しい影響を与える高温登熟を回避**
- 3、**地域(土壌＋気象)に適した土づくりと基肥の施用**
- 4、**夏の高温乾燥は、生育抑制とカメムシなどの多発を誘引**
- 5、**秋の天候不良に左右されない麦播種終了後の収穫作業**



# 適期に作業が順調に出来ることが大切



播種作業



中耕培土作業

収穫作業



# 土地利用型農業について



ほとんどの作業が大型機械



すべての機械を  
これから個人で揃えるのはムリ



でも……



# 土地利用型農業について

農業法人等は機械操作のできる  
オペレーターが必要



法人の一員として農業経営に関わる  
選択肢もあり

**考えてみてはどうでしょう**